

つるがしま里山サポートクラブ 活動報告書 (令和5年度) 2023年度

活動日時	月	日	曜日	開始	終了	場所	会員参加数
	9	30	土	9:00	14:00	五味ヶ谷・藤金	7
活動名称	樹木医によるナラ枯調査					報告者：小沼	

<活動目的>

当クラブと関連がある樹木医の三沢氏（群馬県神流町）の指導のもと、五味ヶ谷および藤金市民の森のナラ枯の実態調査を実施

<主な活動内容>

- ◎ 被害の現状について
- 現状のナラ枯れ被害は埼玉県全域に渡っており、今後は埼玉県西北部方面に拡大すると予想される。
- 里山のコナラ等は歴史的に薪炭林として20年前後で萌芽更新してきたが、近年は放置され、老木となっていることから抵抗力がない等の理由により被害が進んでいる。
- 一旦、カシノナガキクイムシが樹木に入ると伐採以外の対応策は基本的に無理であり、被害の拡散を防ぐことは難しい。
- 自然の鎮静化を待つしかないのが現状である。
- 伐採する場合は、地上30cmの高さにする。（まれに萌芽更新される場合があるので）
- ◎ 調査結果
- 五味ヶ谷市民の森の被害 14本 藤金市民の森の被害 43本
- 該当する樹木の1.5mの高さの幹に白のビニールテープを巻いた。（写真参照）

<課題・評価>

両市民の森の被害本数は計57本である。

すべてを伐採対象とするには多すぎるし、10m以上の高木の伐採は非常に危険であり、当クラブの力量を超えるものであることから、今後の取り扱いは都市計と協議することとする。

57本の内、上部の葉まですべて枯れているものと、葉は緑が残っているものに分類できるが、全く枯れているもの（4～5本）には赤テープを巻くこととする。

◎ 当面の対応について

- 枯れた樹木の大枝が落下することが想定され、危険が予測できる樹木には周囲への進入禁止テープを張る。
- 樹木本体が倒れそうなものは発見都度、伐採する。（当クラブで対応できるものは対応し、無理なものは、都市計に依頼する。）
- 高倉市民の森、太田ヶ谷の森の調査は未実施となった。

◎ 今後の森管理の方向性について（三沢氏見解）

- 該当する樹林地を将来どのようにしていくかの方向性がポイントになる。
 - ・ボランティア団体として将来まで継続して管理できるのか、一定期間後に行政等に任せることにするのか、また、土地所有者の意向がどのようになるかを事前相談することが必要である。
 - ・上記の方向により、余り手入れせず、樹林地を自然のままにするのか（高倉市民の森の極

相林等)、除草、間伐がしやすい樹林地として維持していくことを目指すのか等の方向性が見えてくる。

<里山参加会員>

阿部、橋本、杉山、石川、松井、吉井、小沼

<活動写真>

